



## 平成28年度 第45回 かなえ医薬振興財団 助成金公募を開始しました！

「かなえ医薬振興財団」は今年 45 回目を迎える研究助成金及び海外留学助成金の公募を開始しました。1970 年に設立された当財団は、生命科学分野の斬新な研究の推進を図り、医学・薬学の進歩、発展ならびに国民の医療および保健に貢献することを目的としています。これまで 45 年にわたり、総勢 1,630 名の若手研究者を支援しています。

募集期間：平成 28 年 6 月 1 日～7 月 31 日（締切）

- 助成種類：1. 研究助成金 総額 4,000 万円（40 件 100 万円 / 件）  
2. 海外留学助成金 総額 1,500 万円（15 件 100 万円 / 件）  
3. アジア・オセアニア交流研究助成金 総額 500 万円（5 件 100 万円 / 件）

### 1. 研究助成金 2. 海外留学助成金：

応募資格：40 歳以下（海外留学助成は 35 歳以下）の生命科学分野の研究者

対象領域：研究助成金／海外留学助成金とも、臨床医学 1～5、及び基礎医学 1～4 の全 9 領域。

- |                    |                         |
|--------------------|-------------------------|
| ■臨床医学 1；神経／脳       | ■臨床医学 2；循環器             |
| ■臨床医学 3；消化器／代謝・内分泌 | ■臨床医学 4；呼吸器／皮膚／免疫・アレルギー |
| ■臨床医学 5；血液／他臓器     |                         |
| ■基礎医学 1；癌／ゲノム      | ■基礎医学 2；免疫／炎症／感染        |
| ■基礎医学 3；神経／分化／再生   | ■基礎医学 4；薬理／薬物動態／創薬      |

### 3. アジア・オセアニア交流研究助成金：

応募資格：45 歳以下の生命科学分野の日本人研究者

対象領域：老年医学／再生医学／感染症／疫学／医療機器／漢方／その他

詳しい情報は財団ホームページをご覧ください。 → URL：<http://www.kanae-zaidan.com/>

## ◆名譽理事からのメッセージ



### 積極的に経験を積むこと

荻原 俊男（森ノ宮医療大学学長、大阪大学名譽教授）

名譽理事から若手研究者へ一言と依頼されました。私自身、かなえ医学振興財団には若手研究者といわれた頃には研究助成金をいただき大変感激し、大いに励みになったことを思い出しました。また長年にわたり評議員や理事としてお世話になり、助成金申請書を通じて研究の変遷やトレンドについて逆に教えていただき大いに刺激を受け、若手研究者に感謝しています。当助成金は 1970 年以降 45 年にわたり 1600 名ほどが助成を受け、最近ではアジア・オセアニア交流研究助成金などユニークな助成事業もされており、若手の生命科学分野における研究発展において計り知れない貢献をされています。

さて、若手研究者におかれましては言うまでもなく、研究は漫然とするものではなく、目的意識をしっかりと持つこと、そして多くの経験をつむことが大切です。昨年ノーベル医学生理学賞を受賞された大村智先生は、ある雑誌の対談の中で「積極的に経験を積むこと、経験が多ければ多いほど、自分自身で考えて物事をやっていく自信につながる」と言っておられます。大村先生ほどの偉人の言葉ですから大変重みのある言葉として、現在の私自身にも肝に命じていますが、若い研究者にとっては、とても大事なことと思います。皆様の研究の益々のご発展を祈念します。今後とも皆様方のご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## ◆歴代受賞者からのメッセージ



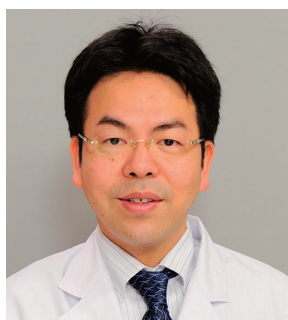
### 第 37 回（平成 20 年度）研究助成金受賞者

井上 治久（京都大学 iPS 細胞研究所 増殖分化機構研究部門 教授）

かなえニューズレター、錚々たる先生方が寄稿されており、毎回楽しく拝読させていただいております。今回「歴代受賞者からのメッセージ」を執筆させていただく機会を賜りましたこと、大変光栄に存じます。

私は今から約 8 年前にかなえ財団より研究助成金を賜りました。ボストンのマクリーン病院より帰国して、京都大学医学部附属病院神経内科助教をさせていただいていた頃であり、とても嬉しくまた大変有難く感じましたことをよく覚えております。「孤発性筋萎縮性側索硬化症患者誘導多能性（iPS）細胞を用いた新規診断・治療法の開発」というチャレンジングな課題に取り組ませていただくことができましたことを、改めまして心より御礼申し上げます。現在は、この時からの研究を足掛かりと致しまして、また多くの先生方の御指導、お助けを頂きながら、幹細胞技術を利用することによって、ヒトの中樞神経系の理解、病態の解明、そして最終的には臨床への還元を目指しております。"From bedside to dish" and "from dish to bedside" が研究テーマです。

最後になりましたが、かなえ医薬振興財団に深謝申し上げますとともに、貴財団の益々のご発展を祈念いたします。



### 第 38 回（平成 21 年度）研究助成金受賞者

小野 賢二郎（昭和大学医学部 内科学講座神経内科学部門 教授）

私は、2009 年度（第 38 回）に「有機化合物に焦点をあてたレビー小体病の予防・治療薬の開発」というテーマでかなえ医薬振興財団から研究助成を頂きました。アルツハイマー病（AD）の病態には、アミロイドβ蛋白（Aβ）が凝集して成熟線維（老人斑）が形成される過程が重要だと考えられています。従来脳アミロイドとして蓄積する成熟線維が神経毒性を発揮すると考えられていましたが、最近、可溶性オリゴマーの毒性に注目が集まっています。私たちは、2000 年代前半に AD における様々な疫学的報告を背景にしてポリフェノール等の有機化合物が、Aβ線維形成を抑制することを明らかにしてきましたが、2000 年代後半になり、前述のオリゴマー仮説が有力視されはじめ、オリゴマー等の早期凝集過程を調べる必要性に迫られていました。そんななかで、私は、2007 年から 2009 年までの 2 年間、オリゴマー研究の第一人者であるカリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）の David B. Teplow 教授のラボに留学に行く機会に恵まれ、オリゴマーの実験系を用いてポリフェノールが Aβオリゴマー形成を抑制することにより細胞毒性を軽減させることを明らかにしました。私は 2009 年春にロサンゼルス留学から帰国し、Teplow ラボで得たオリゴマーの実験系を金沢大学でも立ち上げたいと考えておりました。また、AD に次ぐ神経変性疾患であるパーキンソン病やレビー小体型認知症をはじめとするレビー小体病の病態蛋白である α-シヌクレイン蛋白（αS）の凝集過程においてもレビー小体として蓄積する成熟線維よりむしろオリゴマーが重要であるといわれており、Aβオリゴマーの実験系を αS に応用したいと考えていました。幸運にも、貴財団の研究助成採択により我々の研究は大きく展開することができ、AβやαSの研究で多くの成果を国際誌に発表することができました。その研究成果もあり、現在では、母校の昭和大学病院神経内科で診療科長として勤務させていただいております。科学者として重要な時期にご支援いただいたことは精神的な励みにもなり、改めて貴財団に心より感謝申し上げますとともに、これからも若い科学者たちの支えとなる存在として、益々のご発展をなされますよう、祈念いたしております。

## 第 36 回（平成 19 年度）研究助成金受賞者

石垣 泰（岩手医科大学医学部 糖尿病・代謝内科分野 教授）

かなえニュースレターからお声がけいただき、大変光栄に思います。私は平成 19 年度に血中酸化 LDL と動脈硬化形成のテーマで研究助成をいただきました。当時は大学病院の助教として研究と臨床に勤んでおりましたが、研究者としての将来については漠然とした不安を抱いていました。かなえ財団研究助成の歴代受賞者には錚々たる先生方が連なっていることを知っていましたので、この賞をいただいたことで、何とかやっていけるかもしれないと気持ちを強くしたことを覚えています。私は大学院生時分から、脂質代謝、糖代謝と動脈硬化の関係に興味を持ってきましたが、こうしたテーマで本格的に研究を手がけ始めたのがこの頃でした。一緒に研究するグループができ、飼育するマウスの種類や実験手技の幅も広がり、研究の発展を実感できた充実した日々であったことを思い返しています。現在は動物を用いた基礎的な研究から離れておりますが、臨床で生じた疑問を一步踏み込んで考える際の基盤は、この受賞前後の数年間で作られたものです。思えば仕事の進め方や生活習慣にいたるまで、この時期の研究生活を通じて身に着いたものが主になっています。自身が先頭に立って基礎研究を進めていける時期は長くはありませんが、疑問を放置せず、文献を調べ、自身で検証していくという姿勢は、その後のいかなる進路においても仕事をしていく上で重要な礎になるものと思います。大学に配布される基盤的研究費は年々減少傾向にある中、かなえ医薬振興財団が今後ますます若手研究者の支えとなってくださることを願っております。



## ◆海外留学レポート



## 第 38 回（平成 21 年度）海外留学助成金受賞者

塩田 真己（九州大学大学院医学研究院 泌尿器科学分野 助教）

私は、平成 21 年度に「アンドロゲン除去下の酸化ストレスによる前立腺癌アンドロゲン非依存性の獲得」というテーマで、第 38 回海外留学助成金を頂き、前立腺癌のアンドロゲン非依存性（現在では、去勢抵抗性といわれるようになっていきます）の獲得機序について多くの研究行うことが出来ました。充実した 2 年間の留学生生活を終え、九州大学泌尿器科に戻り、臨床と教育の傍ら、前立腺癌の基礎研究を続けることとなりました。前立腺癌の薬物療法は、去勢や抗アンドロゲン剤によるアンドロゲン除去療法が中心となりますが、もう一つの柱がドセタキセルやカバジタキセルといったタキサン系抗癌剤による治療です。去勢抵抗性に加えて、タキサン系抗癌剤への治療抵抗性について研究する必要があると考え、「転移性前立腺癌におけるタキサン系抗癌剤耐性機序」というテーマで研究助成金に応募しました。幸い、平成 25 年度の第 42 回研究助成金を頂き、そのおかげで、去勢抵抗性とタキサン系抗癌剤治療への抵抗性の相互関係を明らかにすることが出来ました。従来、タキサン系抗癌剤は、去勢抵抗性となってから行われる治療でしたが、昨今、大規模臨床試験において、ホルモン感受性の前立腺癌に対する有効性が示され、大きなトピックとなっております。我々の研究成果はそれに先駆けて、基礎研究の面からホルモン感受性前立腺癌に対するタキサン系抗癌剤の有用性を示したものであり、臨床試験の結果は、我々の研究結果の正当性を支持するものと考えられました。今後も、臨床医としての視点を大切にしながら基礎研究を継続していきたいと考えております。このように、これまで私が研究を続けることが出来ましたのも、かなえ医薬振興財団のおかげであり大変感謝しております。また、今後もこのような形の研究助成を継続して頂き、我々医学研究者を今後もご支援頂けますようお願い致します。



## ◆平成27年度 事業報告

### ■研究助成事業

平成27年度 第44回の助成事業は、6月1日から7月31日の公募期間で、研究助成金576件、海外留学助成金129件、アジア・オセアニア交流研究助成金20件の応募がありました。10月開催の選考委員会で厳正な選考が行われたのち、理事会の承認を受け平成27年度の助成金交付者が決定されました。研究助成金は、1件あたり100万円で40名に総計4,000万円、海外留学助成金は1件あたり100万円で15名に総計1,500万円、アジア・オセアニア交流研究助成金は1件あたり100万円で5名に総計500万円が贈呈されました。

〈研究報告書の公開〉

平成25年度 第42回の研究助成金受賞者の研究報告書を財団ホームページにて公開しました。該当の先生方にはご多忙のところ、貴重な時間を割いてご協力いただき深く感謝申し上げます。

### ■収支決算報告

#### 正味財産増減計算書

平成27年4月1日～平成28年3月31日

(単位：円)

科目	金額
・経常増減の部	
基本財産受取利息	30,000
特定資産受取利息	6,250
受取寄付金	71,000,000
雑収入	11,484
経常収益計	71,047,734
・経常費用	
事業費・研究助成金	40,000,000
・海外留学助成金	15,000,000
・AO交流研究助成金	5,000,000
・その他	6,722,580
管理費	4,684,314
経常費用計	71,406,894
経常外費用計	0
当期経常増減額	-359,160
一般正味財産期首残高	27,739,479
一般正味財産期末残高	27,380,319
指定正味財産期末残高	120,000,000
正味財産期末残高	147,380,319

#### 貸借対照表

平成28年3月31日現在

(単位：円)

科目	金額
・資産の部	
流動資産	2,380,319
固定資産	145,000,000
資産合計	147,380,319
・負債の部	
流動負債	0
固定負債	0
負債合計	0
・正味財産の部	
指定正味財産	120,000,000
(うち基本財産への充当額)	(120,000,000)
一般正味財産	27,380,319
(うち特定財産への充当額)	(25,000,000)
正味財産合計	147,380,319
負債及び正味財産合計	147,380,319

### 発行

公益財団法人かなえ医薬振興財団 事務局

東京都新宿区西新宿 3-20-2 サノフィ株式会社内

Tel: 03-6301-3090 FAX: 03-6301-3094

E-mail: kanae.zaidan@sanofi.com

URL: <http://www.kanae-zaidan.com/>

#### ■ご協力お願いします

このニュースレターは歴代受賞者及び応募関連領域の先生方を中心に約2500部発行しております。もし、送付先に変更がありましたら、登録情報を更新させていただきます。お手数ですがemail等でご連絡いただきますようお願い申し上げます。なお、2013年(第42回)以降の受賞者の皆様はマイページ上でご自身でも更新できますのでどうぞご利用下さい。